



光星初戦

下山のアーチだけじゃない！

令和初 尽くし

6日に行われた夏の甲子園大会開幕戦に勝利した八学光星。令和となつて初めての試合だっただけに、当然ながら数々の「令和初」記録が生まれた。6番打者・下山の初本塁打以外にどのようなものがあったのか。

◇ 一回表、相手先発の乱調から試合が始まった。令和3球目が先頭打者・武岡の腰を直撃し「初死球」、2番島袋がすかさずバントで送り「初犠打」を記録した。

地区大会で全国トップの20打点を挙げた3番近藤は4連続ボールで「初四球」となったが、「1回くらはバットを振りたかった」（近藤）。

四死球、三振、得点…

そしてもちろん完封リレー

4番原はスライダーを捉えきれず「初三振」に倒れたが、この後に下山が満塁弾を放ち、本塁打とともに打点、安打の初記録を同時に達成した。ちなみに三走だった武岡が1点目のホームを踏み「初得点」。

五回には5番大江が「初二塁打」を放ち、春のセンバツで3打席連続三振に倒れた悔しさを晴らした。六回には武岡が放った

中越えの打球がフェンスを直撃。「初三塁打」を記録したが、「本塁打かと思ったので少し残念だった」（武岡）。投手陣では、5回を無失点で抑えた後藤に代わり山田が継投。「背番号1にふさわしいプレーを

しよう」と粘り強い投球を見せ、後藤と二人で「初完封リレー」を達成。チーム全員で「初勝利」をつかみ取った。八学光星の小坂貫志部長は「記念すべき令和初の甲子園大会でプレーした記録と記憶は、選手にとって一生の宝になるだろう」と目を細めた。（大久保拓地）